

平成29年度事業報告書

I 教誨師研修会関係

1 第52回教誨師中央研修会（JKA競輪補助事業）

- (1) 日 時 平成29年8月29日（火）～31日（木）
- (2) 場 所 東京都千代田区 法務省地下大会議室
- (3) 参加者 教誨師 78名 矯正施設関係者 3名 その他関係者 21名
計 102名
- (4) 目 的

矯正施設において被収容者に教誨活動を行う教誨師は常に矯正の現状を把握するとともに、矯正施設の収容動向や処遇の状況を把握して教誨活動を行なっている。そのようなことから昨年に引き続き、薬物事犯者の特質や抱えている心の悩み等についてより理解を深めることに重点を置いて研究討議を行うことにより、知識の習得と教誨技術の向上を図る。

(5) 講 演

法務省矯正局長 富 山 聡 氏

「矯正の現状」

日本ダルク神奈川 五十畑 修 氏

「薬物に関わった人の心の悩み」

川越少年刑務所教育担当専門職 木 崎 道 啓 氏

「川越少年刑務所における薬物事犯者への指導について」

(6) 班別討議 「薬物依存者の社会参加について」

(7) 成 果

今回の研修は、昨年に引き続き薬物事犯者の特質や抱えている心の悩み等について、より理解を深めることに重点を置いた内容により、知識の習得と教誨技術の向上を図ることを目的として、76名の教誨師が3日間の研修を行った。

基調講演では法務省矯正局長富山聡氏より、刑事政策の動向や、最新の矯正施設の状況等について理解し易い内容で講演をしていただき、今後の教誨活動を行う上で大変参考となった。

記念講演では、日本ダルク神奈川の代表である五十畑修氏より、薬物に関わった人の心理状況や五十畑氏自身の体験を交えた内容で講演をしていただき、薬物依存者の特質や薬物依存に陥る原因及び抱えてい

る心の悩み等について理解を深めることができた。

分科会（班別討議）及び全体会では、ダルク施設職員10名の協力により、班別に分かれて教誨師との討議や意見交換が活発に行われ、薬物に関わった状況や理由等を詳しく知ることができた他、薬物に関わった人とどのように接するべきかなどについて多くのことを吸収することができ、宗教教誨を通して、矯正施設に収容されている被収容者が自己と向き合い、抱えている不安や心の悩みを解消することができるための一助となればという思いを強めるとともに、今後の教誨活動のあり方や方向性等について考えを深めることができた。

2 第53回札幌矯正管区教誨師研修網走大会（JKA補助事業）

- (1) 日 時 平成29年6月20日(火)～21日(水)
- (2) 場 所 網走市 網走セントラルホテル 2階「鳳凰の間」
- (3) 参加者 教誨師 49名 矯正施設関係者 35名 その他関係者 5名
計 89名
- (4) 目 的
教誨を通じ、一人一人生きることを感じ、主体的に自らの立ち直りと向き合う教誨活動の在り方を探る。
- (5) 主 題 「未来へ！」
副 題 「更生への気づきを喚起させる教誨をめざして」
- (6) 記念講演
北海道家庭学校校長 仁原 正幹 氏
「子権侵害・親義務違反」～北海道家庭学校の子供たち～
- (7) 研究発表
月形刑務所所属教誨師 金 倉 泰 賢
「教誨を通して教えられたこと」
釧路刑務支所所属教誨師 室 伏 見 秀
「私の目指すべき教誨」～人間復興を信じて～
網走刑務所所属教誨師 飯 野 正 行
「心に触れる教誨」
- (8) 成 果
矯正施設を出た人が再び犯罪に手を染める再犯及び再非行の防止が課題となっているところ、宗教教誨の原点を見つめつつ、被収容者との対話を通じて被収容者が「未来へ」と希望を持てる心を喚起させる

ことが教誨師の使命であると思われる。

これを踏まえて今後の教誨の在り方を考えるに当たり、被収容者に寄り添った教誨活動を展開していく必要性から、児童福祉の分野で経験を積まれた方を記念講演の講師として招き、対人援助職としての対象者の見方、捉え方及び接し方について講演していただいた。児童福祉分野での自立支援の考え方の一つとして、児童本人の納得を積み重ねることにより自立支援を促すことが紹介され、矯正あるいは強制によらない自立支援のあり方を学ぶことができた。

研究発表及び研究討議では、発表者の各教誨師は、実際の教誨の事例紹介及び効果的に教誨を実施していく上でポイントとなると思われる点についての検討等を発表した。日頃、自分以外の教誨師がどのような教誨を実施しているか客観的に見る機会は少ないと思われるが、今般の研究発表及び研究討議はその一端を窺う機会となった。

教誨師は矯正施設における教化活動の一翼を担い、「世界一安全な国、日本」をつくり上げることを願っているところであるが、研修大会を通じて、他の分野における知見を学び、互いの経験を共有し、もって今後の教誨活動の参考とすることができた。

3 第59回仙台矯正管区教誨師研修秋田大会（JKA補助事業）

(1) 日 時 平成 29 年 10 月 5 日(木) ～6 日 (金)

(2) 場 所 秋田市 秋田キャッスルホテル

(3) 参 加 者 教誨師 71 名 矯正施設関係者 33 名 その他関係者 15 名
計 119 名

(4) 目 的

東北地方の教誨師が一堂に会し、矯正施設における被収容者の宗教による教化方策について研修・討議する。

(5) 主 題 「未来へ」

副 題 「過去から学び 明日へ繋げる宗教教誨」

(6) 研究討議

「過去から学び 明日へ繋げる宗教教誨」

発表者 宮城県教誨師会所属 川上 直哉

発表者 山形県教誨師会所属 原 裕

発表者 福島県教誨師会所属 金平 隆生

発表者 岩手県教誨師会所属 松森 弘隆

(7) 記念講演

浄土真宗東本願寺派慧林寺住職 羽部 大仁 氏
「幸せに生きること」

(8) 成 果

大会テーマである「未来へ」、研究討議である「過去から学び 明日へ繋げる宗教 教誨」というテーマの下で行った討議については、発表者も応援発表者も事前に打ち合わせや準備を行っていたため、各施設によってことなる教誨の実施状況等について理解がしやすく、自らが教誨を実施している施設との違いや、教宗派による特色について分かりやすかったと考えられる。また、本大会についてのアンケート結果の中には、これまでの教誨活動に対して感じていた疑問や不安などが解決したという意見も多数あり、本大会における最も大きな成果であると考えられる。

4 第 60 回東京矯正管区教誨師研修茨城大会（JKA補助事業）

(1) 日 時 平成 29 年 6 月 22 日（木）～23 日（金）

(2) 場 所 つくば市 オークラフロンティアホテルつくば

(3) 参 加 者 教誨師 185 名 矯正施設関係者 81 名 その他関係者 39 名
計 305 名

(4) 目 的

「秋葉原事件」を手掛かりとして、生への不安・居場所の崩壊・孤独・依存・断絶、そして関係性の希薄化など現代が抱える問題点、社会構造の変化をどう受け止めていくべきなのかを共有したいと願う。

(5) 主 題 「未来へ」

副 題 「いのちの尊さをめざめさせる教誨師の任務」

(6) 講演

講 師 東京工業大学 教授 中島 岳志 氏

演 題 「秋葉原事件」～現代社会の生きづらさにどう向き合うか～

(7) 分科会

第 1 分科会 テーマ 「相手に届く言葉とは」

第 2 分科会 テーマ 「宗教者としてこの事件に何がいえるか」

第 3 分科会 テーマ 「本音で向き合える関係とは」

(8) 成 果

アンケート調査を実施した結果、研修を通して今までの認識が改められたという回答結果が 7 割を超え、良好な反応であった。新たな知見は新たな課題となることになり、ここに本大会の成果が認められる。

今回の研修は「秋葉原事件」を切り口としたが、全ては教誨師自身が問われていることを確認し、参加者全員の共通理解を得ることができたことが最大の成果と言えよう。なお、2日間を通して一貫したテーマを掘り下げ、まとめを教誨師自身で作りに上げたところに本大会の特徴があった。研修を行い自己謙さんに努め、ここの教誨活動に反映されることが研修実施の最終目的であり、より一層の内容充実に努めていくこととした。

5 第61回名古屋矯正管区教誨師研修大会（設立60周年記念石川大会）

（JKA補助事業）

- (1) 日 時 平成29年6月13日（火）～14日（水）
- (2) 場 所 金沢市 ホテル日航金沢
- (3) 参加者 教誨師93名 矯正施設関係者47名 その他関係者9名
計149名
- (4) 目 的
更生しようとする目的意識、たとえ無意識の中でも、私たち教誨師の真摯な活動で被収容者の心を育み、より強い目的意識を持ち、昨日より今日・そして明日へのたしかな一歩を後押しし、自らの過ちを自覚するとともに、人を思いやる心の発揚と希望が芽生える教誨を目指す。
- (5) 主 題 「未来へ」
副 題 「昨日より今日・そして明日へ」
- (6) 基調講演
講 師 龍谷大学法科大学院教授 福 島 至 氏
演 題 「刑事司法と更生支援」
- (7) 記念講演
講 師 金沢能楽美術館館長 吉 野 春 夫 氏
演 題 「金沢の能」
- (8) 全体討議（パネル・ディスカッション）
発表者
岐阜刑務所所属教誨師 松 久 宗 心
「大会テーマ『未来へ』～昨日より今日、そして明日へ～」
名古屋刑務所所属教誨師 山 口 常 賢
「昨日より今日、そして明日へ」
名古屋拘置所所属教誨師 渡 辺 善 治
「慎みの心から」
湖南学院所属教誨師 竹 内 卓 洋

「湖南学院での教誨活動」

助言者

龍谷大学法科大学院教授 福島 至 氏

(9) 成 果

全体討議では、中部地方内の4人の教誨師が発表を行い、質疑応答において、研修に参加した教誨師等から建設的な意見も出て、研修参加者が共感しており、また、助言者から、教誨師に共通する宗教的情操や価値観について助言があり、有意義であった。

講演については、「石川県らしいテーマで適切であり、大変貴重な話を伺うことができた。」というアンケート回答が多くあった。

6 第65回大阪矯正管区教誨師研修大会

(1) 日 時 平成29年11月17日(金)

(2) 場 所 大阪市 ザ・リッツ・カールトン大阪

(3) 参加者 教誨師129名 矯正施設関係者67名 その他13名
計209名

(4) 目 的

教誨活動の研鑽と充実を目指して

(5) 主 題 「未来へ」

副 題 「“出遭い”によって輝くいのち」

(6) 講演

関西学院大学名誉教授 船木 弘毅 氏

「恥多き生を生きる」

同朋大学元学長 中村 薫 氏

「縁に生きる」

(7) 成 果

テーマに沿った講師をシンポジストとして選定したことで、宗教学的な内容でありつつも具体的な体験談を通して「自らの意志で何一つとして選ぶことの出来ない生命を生かされていること」について、教誨師はもとより参加した施設職員も理解を一層深めることができた。

アンケート結果からも、参加者が宗教的根源の問題や自身の信仰する教えだけでなく、他宗の基本的な教義・教語の知識について学ぶ機会として刺激のある研修内容であったことが認められ、教誨師からは、今後被収容者との向き合い方について、施設職員からは、更生に向けた取組み、指導を行うときに参考となる言葉や取組み等について新た

な発見にもつながった。

以上のことから、研修会として大きな成果が認められ目的が達成された。

7 第27回広島矯正管区教誨師研修会（JK A補助事業）

- (1) 日 時 平成29年6月29日（木）
- (2) 場 所 山口市 山口グランドホテル
- (3) 参加者 教誨師71名 矯正施設関係者46名 その他関係者2名
計119名
- (4) 目 的
被収容者の事情や心根を理解し、人として生きることの尊さを伝え、真の人間性に目覚めさせ、希望を持って心豊かな人生の構築へと導く教誨活動に資することを目的とする。
- (5) 主 題 「未来へ」
副 題 「希望へ導く教誨を目指して」
- (6) 基調講演
山口刑務所首席矯正処遇官（企画担当） 村 田 靖 治 氏
「社会復帰に向けた当所の取組みについて」
- (7) 記念講演
いのちミュージアム 事務局 山 根 和 子 氏
「人とつながる」
- (8) 成 果

平成24年に犯罪対策閣僚会議において「再犯防止に向けた総合対策」が策定され、また、平成25年12月には、『世界一安全な日本』創造戦略が閣議決定され、現在、安全、安心な社会の実現という大きな目標のため、国を挙げて、再犯防止施策に一丸となって、取り組んでおり、その中で矯正の果たす役割は、非常に大きくなっている。

刑事施設に対して、国民は、再非行防止施策の充実はもとより、社会に開かれ、信頼の輪に支えられた施設を目指すことが求められている。これらを受けて、現在、各矯正施設においても受刑者や非行少年の再犯・再非行の防止のため、更生意欲の喚起や社会生活に適応するため能力の育成を図るべく、様々な教育・指導がなされている。

その対象となる受刑者や非行少年が己を見つめ直し、自ら改善しようとする前向きな気持ちも大切であるが、被害者の存在を忘れてはならない。

本研修大会においては、広島矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師と、広島矯正管区管内の矯正施設の関係者が一堂に会し、大会テーマの主題「未来へ」、にそって、研修が行われ、受刑者や非行少年の社会復帰についての研修はもちろんのこと、被害者を含めた社会が、同じような被害者を生まないためにどうすれば良いのかについて一石を投じた。具体的な方策、内容、教育、指導との連携に多くの課題があるものの、教誨師や職員は、加害者の近くにおいて影響を与えやすい。特に職員とは違う立場の教誨師の前向きで寛大な姿勢が大切である。このような役割を教誨師が担うことは、社会全体からの要請であるともいえるものであり、国民からの負託に積極的にこたえようとする各教誨師の前向きな姿勢が表れた充実した内容の研修会であった。

8 第43回高松矯正管区教誨師研修大会（JKA補助事業）

(1) 日 時 平成 29 年 7 月 3 日（月）～4 日（火）

(2) 場 所 徳島市 徳島グランヴィリオホテル

(3) 参 加 者 教誨師 37 名 矯正施設関係者 38 名 その他 3 名
計 78 名

(4) 目 的

所属教誨師の宗教教誨に関する研究協議の促進を図り更に相互の親睦を図ることを目的とする。

(5) 主 題 「未来へ」

副 題 「生きる力を育む教誨をめざして」

(6) 講 演

京都女子大学非常勤講師 臨床心理士 竹下 三隆 氏

「対象者の理解と関わり」

—お互いの心が開けると話がはずむ—

(7) 研究発表会

「神社神道から見た教誨のありかた」

発表者 高松刑務所所属教誨師 猪 熊 兼 年

「心に残る教誨をめざして」

発表者 高知刑務所所属教誨師 アントニオ・イルダヤラジ

「教誨師の活動を通して思うこと」

発表者 松山学園教誨師 三 浦 義 文

(8) 分科会

「グループ教誨で気を付けていること」

座長 徳島刑務所教誨師 北村清治
「個人教誨で気を付けていること」
座長 徳島刑務所教誨師 清原修
「少年非行に向かきあつて」
座長 丸亀少女の家教誨師 石倉敬之

(9) 成 果

大会テーマである「未来へ（生きる力を育む教誨をめざして）」に基づき、高松矯正管区（四国4県）教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、刑事施設（刑務所等）や少年施設（少年院等）における宗教教誨に関する研究協議を図り、更に、相互の親睦を図ることを目的として研修を実施した。

講演や分科会方式による活発な意見交換などにより、教誨師が相互に情報を交換し、協力することで被収容者の再犯防止及び円滑な社会復帰を目指すことを確認した。

（1）研究発表

比較的経験年数の少ない教誨師が、これまで行ってきた教誨の実施方法、教誨実施上の悩みや不安を発表することで、経験の豊富な教誨師は、新たな教誨の取組方法を発見するとともに、経験の比較的少ない教誨師は、今後の教誨実施に向け、具体的なアドバイスを受けることができた。

参加者は、発表者の不安を解消すべく、様々な方向からの切り口でアドバイスを行い、また、新たな取組を実施するための準備の方法や、被収容者の反応などを発表者だけでなく、参加した教誨師間で共有することができた。

（2）基調講演

講師に、京都女子大学非常勤講師竹下三隆氏を迎え、「対象者の理解と関わり—お互いの心が開けると話がはずむ—」と題し、これまでの被収容者に対する豊富な面接や指導の経験から、①呼吸の間、②面接の雰囲気、③言い方の工夫、④自立の考え方等について具体的な事例を踏まえた内容の講演を実施した。さらに、講演内容を実際に経験し、今後、実践に活用するため、参加者数名のグループを作り、演習を行った。

(3) 各研究会

教誨の主な形態である、「グループ」、「個人」、「少年と成人」に関して、教誨師間だけにとどまらず、「教誨師と施設職員」、「少年施設と成人施設」の情報の共有を図ることを目的として、教誨師からの施設に対する要望、各施設間における教誨に関する情報の共有、少年に対する教誨に関して、成人を担当する教誨師が少年に対する教誨を実施する上での不安解消のための議論など、教誨師、施設職員、又は、施設間で情報を共有し、それぞれの被収容者の目的に沿った教誨活動を、それぞれの立場や「成人少・少年」の垣根を越えた協力体制を構築し、今後の「生きる力を育む教誨」につながる意見交換が行われた。

9 第42回福岡矯正管区教誨師研修鹿児島大会

(1) 日 時 平成29年11月6日(月)

(2) 場 所 鹿児島市 サンロイヤルホテル

(3) 参加者 教誨師82名 矯正施設関係者17名 その他3名 計102名

(4) 目 的

宗教教誨は、被収容者と共にわが身の現実を見つめ、人間のあり方を問いながら、これからの人生をどのように生きていくのかを聞いていく場です。

そして、教誨師と被収容者がお互いに、いのちの尊厳に目覚めつつ、希望ある、豊かな人生を歩むことを願い、この研修大会を開催する。

(5) 主 題 「希望へ」

副 題 「現実を共に見つめ 実りある宗教教誨をめざして」

(6) 講 演

鹿児島地方検察庁 検事正 村瀬 正明 氏

「検察庁における再犯防止の取組について」

(7) 成 果

本研修大会において、福岡矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、大会のサブテーマでもある「現実を共に見つめ 実りある宗教教誨をめざして」とし開催した。

記念講演では、講師の村瀬正明氏より近年の犯罪情勢について犯罪白書の統計資料に基づき、戦後最低を記録した刑法犯の認知件数ながら、各種犯罪の再犯率は増加し刑務所への再入者率も上昇傾向にあることが紹介された。

平成28年12月には、再犯の防止等の推進に関する法律が成立したことをうけ、検察庁の職務から見た再犯防止のための刑事施策的取組の

着実な実施には、日常的に他の関係機関との連携や情報共有が不可欠であり、矯正施設における教誨活動をとおして更生への意欲と社会生活に適応するための被収容者の心の支えとなる宗教教誨の必要性と役割に、各教誨師の前向きな姿勢が表れた研修会であった。

II 連絡調整関係

1 宗団代表者との連絡協議会（京都部会）

- (1) 日 時 平成 29 年 9 月 27 日 (水) 午後 2 時～午後 4 時 30 分
(2) 場 所 京都市 西本願寺 聞法会館 3 階研修室 1
(3) 出席者 総 数 33 名
- | | | |
|-------------------|--------|--------|
| 神社本庁 | 大本 | 金光教 |
| 天台宗 (3 名) | 高野山真言宗 | 真言宗豊山派 |
| 浄土宗 | 真宗大谷派 | 曹洞宗 |
| 日蓮宗 | 天理教 | |
| カトリック中央協議会 | | 日本基督教団 |
| 浄土真宗本願寺派 (森田社会部長) | | |
| 教誨師連盟関係 (17 名) | | |

(4) 議 事

ア 報告事項

- 平成 28 年度事業報告及び収支決算報告について
- 平成 29 年度事業計画及び収支予算について
- 平成 28 年度宗団賛助金収納状況について
- 連盟創立 60 周年記念大会の寄附金入金状況について
- 全国教誨師大会の日程変更について

イ 協議題

- その他当面の諸問題について

ウ 教宗団内における研修状況等について

2 宗団代表者との連絡協議会（東京部会）

- (1) 日 時 平成 29 年 10 月 11 日 (水) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 30 分
(2) 場 所 東京都豊島区駒込 天理教東京教務支庁 2 階会議室
(3) 出席者 総 数 28 名
- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 天理教 (5 名) | 神社本庁 | 浄土宗 |
| 天台宗 (2 名) | 浄土真宗本願寺派 | 真宗大谷派 |
| 曹洞宗 (2 名) | 臨済宗妙心寺派 | 日蓮宗 (2 名) |
| 立正佼成会 | カトリック中央協議会 | |
| 日本バプテスト連盟 | | |

全国教誨師連盟（9名）

(4) 話 題

- ア 平成28年度事業報告及び収支決算報告について
- イ 平成29年度事業計画及び収支予算について
- ウ 平成28年度宗団賛助金収納状況について
- エ 創立60周年記念大会の寄附金入金状況について
- オ 全国教誨師大会の日程変更について
- カ 各教宗団の研修状況について
- キ その他

3 第5回法務省矯正局との意見交換会

- (1) 日 時 平成29年12月15日(金) 午後4時30分～午後6時00分
- (2) 場 所 法務省矯正局14階会議室
- (3) 出席者 総 数 17名

富山矯正局長	大橋官房審議官	
松村成人矯正課長	木村少年矯正課長	
齋藤成人矯正課企画官	日笠少年矯正課企画官	
畠山成人矯正課補佐官	藤原少年矯正課補佐官	
野口成人矯正課事務官		
平野参与	舎奈田理事長	中川副理事長
竹岡副理事長	石川副理事長	山根副理事長
龍田事務長	佐藤主事	

(4) 協議事項

- ア 外部協力者の不祥等事案の概要通知について
- イ DVD作成のための施設内撮影等について
- ウ 教誨実施カウント方式の統一について

III 顕彰関係

1 生存者叙勲（春：4名 秋：4名）

春	北野 良昭	曹洞宗	滋賀刑務所
	島地 興霖	浄土真宗本願寺派	盛岡少年刑務所
	田村 晃洋	真宗大谷派	水戸刑務所
	長谷川隆嶽	浄土真宗本願寺派	高知刑務所
秋	枝川 円陽	天台宗	岡山刑務所
	岡本 慈勝	真言宗御室派	徳島刑務所
	鎌倉 玄悦	浄土真宗本願寺派	盛岡少年刑務所
	村上 義英	浄土真宗本願寺派	松山刑務所

2 藍綬褒章（春：5名 秋：6名）

春	石原 和久	真宗大谷派	名古屋刑務所
	植村 悦雄	天理教	奈良少年院
	加藤 貫裕	日蓮宗	大阪医療刑務所・和泉学園
	日笠 徹	黒住教	岡山刑務所
	槇 研治	曹洞宗	名古屋刑務所
秋	今出川行雲	天台宗	滋賀刑務所
	河合 了栄	高野山真言宗	笠松刑務所
	北畠 顯諒	真宗大谷派	和泉学園・大阪刑務所
	廣安 俊道	真言宗大覚寺派	尾道刑務支所
	岩田 光哲	浄土真宗本願寺派	川越少年刑務所
	友永 紘一	天理教	神戸刑務所

3 総裁表彰（18名）

	大道 光肇	曹洞宗	釧路刑務支所
	三ツ井久良蔵	天理教	秋田刑務所
	中川 文隆	神社本庁	府中刑務所
	松濤 孝佳	浄土宗	栃木刑務所
	仲田 周雄	天台宗	茨城農芸学院
	田所 賢二	日本バプテスト同盟	松本少年刑務所
	辻 良尚	浄土真宗本願寺派	名古屋刑務所
	荒山 信	真宗大谷派	名古屋刑務所
	法信 公照	真宗大谷派	名古屋拘置所
	谷川 弘顯	浄土真宗本願寺派	神戸刑務所
	浦地 洪一	日本聖公会	京都刑務所
	前阪 良憲	天台眞盛宗	滋賀刑務所
	村山 雅雄	曹洞宗	大阪刑務所
	大山 恵	日本基督教団	大阪拘置所
	佐藤 正立	金光教	広島刑務所
	越智 憲明	浄土真宗本願寺派	松山刑務所
	土屋 栄巖	真言宗豊山派	松山刑務所
	古賀 祐法	真宗大谷派	福岡刑務所・福岡拘置所

4 法務大臣感謝状（25名）

	白山 敏秀	真宗大谷派	札幌刑務所
--	-------	-------	-------

片岡	正己	真宗大谷派	旭川刑務所
木田	惠嗣	プロテスタント（単立）	福島刑務支所
仁本	照恵	浄土真宗本願寺派	青森刑務所
黒田	勲	救世軍	府中刑務所
小林	正夫	真宗大谷派	茨城農芸学院
西土	真芳	浄土宗	市原刑務所・市原学園
大中	明英	浄土真宗本願寺派	黒羽刑務所
南荘	乗宏	浄土真宗本願寺派	静岡刑務所
根岸	千恵子	神社本庁	神奈川医療少年院
山口	常賢	浄土宗	名古屋刑務所
岡部	快圓	真言宗智山派	名古屋刑務所
小野	正信	浄土真宗本願寺派	岡崎医療刑務所
沙加戸	明	真宗大谷派	滋賀刑務所
平戸	昭乗	浄土真宗本願寺派	大阪刑務所
緒方	正弘	浄土真宗本願寺派	大阪拘置所
福井	浄堂	浄土宗	和歌山刑務所
墨林	浩	真宗大谷派	大阪医療刑務所
吉田	正裕	真言宗御室派	広島刑務所
森	賢治	プロテスタント（単立）	鳥取刑務所
額田	浩	日本基督教団	岡山刑務所
田村	正教	浄土真宗本願寺派	高松刑務所
森	信基	金光教	松山刑務所大井造船作業場
楠	孝明	浄土真宗本願寺派	福岡少年院
山本多美男		浄土真宗本願寺派	熊本刑務所

5 日本宗教連盟理事長感謝状（12名）

稲垣	孝道	浄土宗	旭川刑務所
英	元弘	曹洞宗	置賜学院
橋立	秀文	曹洞宗	栃木刑務所
津守	弘範	真言宗智山派	多摩少年院
山田	義俊	浄土真宗本願寺派	愛光女子学園・府中刑務所
堀	智仙	日蓮宗	笠松刑務所
伊奈	祐諦	真宗大谷派	岡崎医療刑務所
松本	昌丈	神社本庁	金沢刑務所
土井	克彦	臨済宗妙心寺派	京都刑務所・京都拘置所
高橋	哲	浄土真宗本願寺派	広島拘置所

越智 憲明 浄土真宗本願寺派 松山刑務所
ウォルター・マーク・マクセイ
キリストの教会 鹿児島刑務所

6 全国教誨師連盟理事長感謝状（1名）

安田 規浩 （大阪府） 平成28年度に多額の寄附

IV 物故者（9名）

小倉 自昭	真宗大谷派	中津少年学院	4月14日逝去
鷺尾 芳隆	浄土真宗本願寺派	京都刑務所	7月22日逝去
加藤 友光	曹洞宗	函館少年刑務所	8月3日逝去
泉山 広宣	浄土真宗本願寺派	盛岡少年刑務所・盛岡少年院	9月16日逝去
松本 武三	カトリック	大阪拘置所・大阪刑務所	10月24日逝去
加門 得勇	高野山真言宗	神戸刑務所	11月9日逝去
齋藤 政幸	日本フォースクエア福音教団	函館少年刑務所	10月26日逝去
小松 勝昭	浄土真宗本願寺派	播磨社会復帰促進センター	1月4日逝去
長澤 普天	浄土宗	京都刑務所	3月21日逝去

V 各種刊行物等の発行

1 宗教教誨事例集	平成29年9月1日発行
2 教誨師連盟だより 53号	平成29年9月1日発行
3 教誨師連盟だより 54号	平成30年1月31日発行
4 全国教誨師会員名簿 平成29年度版	平成30年3月30日発行
5 「教誨」52号	平成30年3月30日発行

VI 公益事業関係会議

教誨師中央研修会関係

1 企画実行委員会

(1) 日時 平成29年4月20日（木）午後1時～同5時
(2) 場所 東京都千代田区 矯正局14階会議室
(3) 出席者 総数 25名

- (4) 議 事 第52回教誨師中央研修会の目的・同対象者・研修カリキュラム

2 企画実行委員会

- (1) 日 時 平成29年7月25日(火)午後3時00分～同6時00分
(2) 場 所 東京都千代田区 矯正局14階会議室
(3) 出席者 総 数 21名
(4) 議 事 第52回教誨師中央研修会の役割分担

3 評価委員会

- (1) 日 時 平成29年8月31日(木)午後2時～同4時00分
(2) 場 所 東京都千代田区 法務省地下小会議室
(3) 出席者 総 数 8名
(4) 議 事 第52回教誨師中央研修会の第一回目評価

教誨マニュアル作成準備委員会

1 第55回会議

- (1) 日 時 平成29年5月10日(水)午前10時30分～同5時00分
(2) 場 所 東京都中野区新井 矯正会館4階会議室
(3) 出席者 総 数 14名
(4) 議 事 事例集ゲラの読み合わせ

2 第56回会議

- (1) 日 時 平成29年6月5日(月)午前10時00分～同12時00分
(2) 場 所 東京都中野区新井 矯正会館4階会議室
(3) 出席者 総 数 13名
(4) 議 事 事例集ゲラの読み合わせ

3 第57回会議

- (1) 日 時 平成29年7月27日(木)午後2時30分～同5時00分
(2) 場 所 東京都中野区 矯正会館第2会議室
(3) 出席者 総 数 12名
(4) 議 事 事例集ゲラの読み合わせ

※ 事業報告に関する附属明細書はありません。